

第4回げんきプラザの在り方検討に関する有識者会議 議事概要

日時

令和6年1月19日（金）10:06-11:22

開催方法

対面とオンラインによるハイブリッド開催
会議の様子はZOOMウェビナーにて配信

議事

げんきプラザの在り方検討に関する有識者会議提言（案）

参加者（座長・副座長以下、五十音順）

坂口緑委員（座長）、青山鉄兵委員（副座長）、安藤秀一委員、鈴木秀明委員*、
星野敏男委員、松村純子委員

*書面参加

主な発言

- 資料2 1ページの「今後のげんきプラザの重点的な機能」の今後の方向性1に関連する機能について、「体験活動の専門家が、学校の教育活動を支援することにより、子供たちの資質能力の向上を図る機能」とあるが、学校の教育活動を支援するという趣旨は賛同するが、学校の負担軽減が求められていることと同様に、青少年教育施設の職員に対して過度な負担にならないように配慮すべきと考える。この表現だと施設の職員に全部任せるというように見受けられる。
- 学校が実施する集団宿泊活動の重要な受け皿として、青少年教育施設がこれからも社会に役立っていくためには、施設を通じて学校教育に対してどのようなサポートができるかという観点で記載した方が、検討の趣旨に合うのではないかと思う。その点において、施設が高い専門性を有しているという前提は崩さないほうがいいのではないかと思う。

- 何が学校教育を支援するのかという点が、ある程度明確になっている必要があると思う。それが何なのかという部分は大きな括りで含ませるとして、やはり体験活動が学校教育を支援することになると思う。多人数での活動の機会、それから周りとのコミュニケーションという、協働の要素を加えて、「協働的な体験活動」とした方が、主語が明確になった上で、学校の教育活動の支援を通じて、子供たちの資質能力の向上が図れるという自然な流れになると思う。
- 資料の20ページ「今後のげんきプラザの方向性」の今後の方向性1「豊かな自然を生かしてすべての子供たちにリアルな体験を提供する社会教育施設」に関連して、議論のまとめに書き込むということではなく、実施段階で参考としてもらいたいものとして、不登校等の課題を抱える子供たちへ支援する取組について、どのような取組があるのか、取組んだ効果や事例等の情報提供を積極的に発信していくことにより、こうした子供たちの利用につながるのではないかと思う。また、様々な事情を抱えている子供のために、どのような取組等を提供できるのか検討する上で、専門的な知識を持ったアドバイザーがいるとよいと思う。
- 資料の20ページ「今後のげんきプラザの方向性」の今後の方向性2「県民の生涯学習振興のネットワークの拠点となる社会教育施設」について、議論のまとめに書き込むということではなく、実施段階で参考としてもらいたいものとして、げんきプラザ同士の連携だけで終わるのではなく、博物館や図書館など他の社会教育施設と繋がることにより、より一層大きな広がりをもった取組になると思う。狭い範囲のネットワークにならないように留意してもらいたい。
- 資料の20ページ「今後のげんきプラザの方向性」の今後の方向性3「県が果たす役割に重点化し、宿泊を伴う体験活動を中心に実施していく社会教育施設」について、県が果たす役割という部分が、県民に対して見えずらい、また少しイメージしづらいのではないかという点を心配している。県が果たす役割として、「広域的な」という言葉を入れた方がよいと思う。

- 資料の20ページ「今後のげんきプラザの方向性」の今後の方向性3「県が果たす役割に重点化し、宿泊を伴う体験活動を中心に実施していく社会教育施設」について、趣旨に異論があるわけではないが、後段の「宿泊を伴う体験型を中心に実施していく」という表現の主語が社会教育施設になることから、「実施」という言葉でよいか気になっている。「宿泊型の体験活動が充実した社会教育施設」という表現がよいと思う。
- 資料21ページの「今後のげんきプラザの重点的な機能」の今後の方向性3に関連する機能について、「周辺の自然環境や施設の特徴を生かした体験や宿泊を通じて、仲間同士の交流を図る機能」とあるが、やや古い言い回しに聞こえる。一方で、資料の20ページ「今後のげんきプラザの方向性」の今後の方向性3に係る「有識者会議における主な意見」の箇所では、「自立心や協調性を養い、自己有用感の醸成に繋がる」と書かれている。このため、「体験や宿泊を通じて」と「仲間同士の交流を図る機能」の間に、「自立心や協調性を養い」という言葉を入れるのがよいと思う。
- 資料の21ページ「今後のげんきプラザの重点機能」の今後の方向性3に関連する機能について、議論のまとめに書き込むということではないが、「安全かつ快適に寝食を共にできる宿泊機能」というものは、当たり前であるが非常に重要なポイントである。先の令和6年能登半島地震に際して、県立社会教育施設が活用されたという事例もあった。予算の面で厳しい事情があることも分かってはいるが、安全・快適が担保されるように施設の修繕をやってほしい。